

雛人形 新市場開拓のための ディスプレイスタンドデザイン開発



図 1 桂雛

【開発の背景】

有限会社 桂雛は手作りの雛人形を生産しており、雛人形は茨城県の郷土工芸品に指定されております。(図 1)

現代では、雛人形は3月3日「桃の節句」に飾るものですが、歴史を振り返ると江戸時代には9月9日「重陽の節句」にも飾る風習がありました。近年はそれにちなみ、一般社団法人日本人形協会がその日を「大人の雛祭り」と称して、インターネット等でのPRをしています。

有限会社 桂雛でも、桃の節句以外の時期に雛人形を飾る機会を広げたいとの考えから、大人向けの雛人形を展開しています。

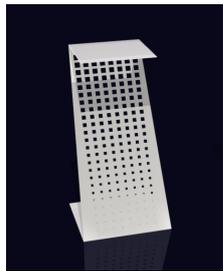


図 2
スタンドデザイン



図 3
たわみ解析

【開発の経緯・支援内容】

今回、有限会社 桂雛では、大人向けの雛人形の新たな模索として、インテリア市場でのニーズを調査するために、東京ビッグサイトにて行われるインテリア国際展示商談会への出展を計画しました。

これにあたり、雛人形の固定観念である「女の子向けの可愛らしい印象、二体を一対で飾る」という考えから離れた展示を試みるために、同社と当センターとともに、展示方法や什器を検討し、金属製のディスプレイスタンドの開発を行いました。

当センターではその支援として、金属板金の曲げ加工によるディスプレイスタンドのデザイン(図 2)、たわみの解析シミュレーション(図 3)、試作(図 4)などを行いました。

また、インテリア展示会の出展ブースのイメージシミュレーション(図 5)もあわせて支援しました。

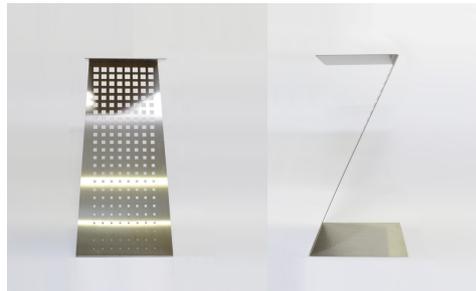


図 4 試作品

【開発した製品の紹介】

有限会社 桂雛では、今回のデザインや試作をもとにディスプレイスタンドを製作し、インテリア展示会にて雛人形の新たな飾り方の提案を行いました。

現在は自社店舗での展示販売にも用いています。



図 5 展示イメージ
シミュレーション



・希望上代価格 36 万円
(雛人形 1 体とセット)

有限会社 桂雛
Tel 029-289-3246

基礎となった事業

平成 26 年度 オンリーワン技術開発支援事業 (受託研究)
デザイン開発支援事業

現在の担当部門

産業連携室	室 長	磯 智昭	TEL:029-293-7213
	主任研究員	石川 章弘	
先端材料部門	部 門 長	齋藤 和哉	TEL:029-293-7492
	主任研究員	行武 栄太郎	
	技 師	石川 裕理	